

## 河北潟干拓地から新たに記録されたクマネズミ

大串龍一

河北潟湖沼研究所

〒920-0051 石川県金沢市二口町八58

要約： 河北潟干拓地においては、これまでに4種類のネズミの生息が確認されてきた。2002年に、新たにクマネズミの生息を確認したので報告する。なお、石川県におけるクマネズミの分布が正式に記録されたのはこれが最初である。さらに干拓地におけるクマネズミの定着とそれをめぐる問題について論じた。

キーワード：河北潟干拓地，クマネズミ，石川県初記録

1970年に干陸化が完成した河北潟干拓地においては、これまでにハタネズミ、ハツカネズミ、アカネズミ、ドブネズミの4種類のネズミ科Muridaeに属する小型哺乳類が生息することが知られていた(Ohgushi, 1985; 大串, 2002等)。これらによる農作物の被害は、毎年のように問題となっている。

筆者は2002年1月に、干拓地内部の畑地内にある収穫物の貯蔵小屋においてネズミの採集をしたさいに、捕獲された大型のネズミ3個体が、その形態と生息状況などから、この干拓地内に多いドブネズミとちがっているように思われたので、詳しく調べた結果、その体の計測値ならびに形態から、これまで生息が知られていなかったクマネズミ*Rattus rattus*(L.)であることを確かめたので報告する。

その後、同じ場所や干拓地内にある別の施設などを調査した結果から、クマネズミが干拓地内にすでに定着し、かなり広く生息している可能性も推測されたので、今後の問題についても考察したい。

### 捕獲したときの条件と種類の判定

最初にクマネズミを捕獲したのは2002年1月30日である。この時期は毎日のように降雪

があり、河北潟干拓地は全域にわたって、20cm以上の積雪に覆われていた。この中で冬季のネズミの生息状況を調査するために、干拓地の畑、耕作されていない草地、耕地内にある収穫物などの収納のための納屋のネズミ調査を行っていた。

30日の午後に野菜(ハクサイ)畑1カ所、草地1カ所、納屋の内部(土間および2階の床面)にそれぞれ10コのノネズミ調査用のカゴワナを設置して、翌日の早朝に回収した。餌には生のサツマイモを用いた。その結果、草地で1個体、小屋内部で3個体(土間1個体、2階2個体)のネズミが捕獲できた。草地の1個体はアカネズミであったが、小屋内部の3個体は大型で濃い灰褐色、腹がスレート色の尾の長いネズミであり、それまでに干拓地で採集されたドブネズミといくらか違っているように思われたので、体の各部分を詳しく計測した。その測定値ならびに観察した形態の特長は表1の通りである(標本番号KA-1, KA-2, KA-3)。これによると、尾長が頭胴長よりかなり長く、また2個体は耳を折り返すと眼に達することや、尾の全長にわたって細かい毛が生えていることなど、いずれも従来から河北潟干拓地で捕獲されるドブネズミとははっきりと違った特長を持っていた。さらにこの納屋はトタン張りのほ

表1. 河北潟干拓地において捕獲したクマネズミの計測・観察記録.

個体番号	性	体重 (g)	頭胴長 (mm)	尾長 (mm)	後足長 (mm)	耳長 (mm)	毛色その他の特徴
KA-1 (2階)		148.0	111.6	178.0	32.6	18.7	耳の折返し僅かに眼に届かず 背は灰褐色 腹は灰色
KA-2 (2階)		102.0	112.0	148.0	30.5	16.8	耳の折返し眼に達する 背は灰褐色 腹は灰色
KA-3 (土間)		97.0	103.0	153.0	31.6	17.2	耳の折返し眼に達する 背は灰褐色 腹は灰色
KA-11-1 (土間)		54.5	107.8	120.2	31.5	18.2	耳の折返し眼に達する 背は濃黒灰色 腹は灰色

とんど垂直の外壁に囲まれており,土間からの高さが4m 近い2階に登るには急角度の梯子しかなかった.こうしたドブネズミには登ることができない2階で捕獲された点からも,ドブネズミとは考えにくかった.また土間には大きなネズミの糞が多数散らばっていたが,その糞の計測値(図1)から見てもドブネズミではなく,クマネズミと考えられた.

同じ場所で2002年11月27日にも,クマネズミが捕獲されている.その計測資料は表1に記録した(KA-11-1).

河北潟干拓地においては,2001-2002年にいろいろな条件の場所でネズミ類の採集を行っているが,上記の小屋以外ではまだクマネズミは捕獲されていない.しかし,干拓地の中にある畜産団地の牛糞処理を目的として,2000年に干拓地のほぼ中央に建設された大規模な堆肥製造施設「ゆうさの里」の,堆肥の収納・袋詰め作業場である建物内で採取したネズミ糞を計測したところ,クマネズミ型と判定できる糞が多数であった(図1).ここではまだネズミは捕獲できていないが,ここにもクマネズミが生息している可能性は高い.

#### 考察

石川県ではこれまでクマネズミが分布することは,野生動物研究者や公衆衛生関係者には半ば常識となっていたが,まだ正式な捕獲記録はなかった(八禅,1999).クマネズミの生息を推定させる聞き取り記録(大串1983等)はあったが,確かな標本も保存されていない.クマネズミが石川県で正式に記録されていなかったことは,ドブネズミとともにごく普通の家鼠であるクマネズミは,もともと日本全国に分布していると考えられており,あらためて石川県で記録したり,標本を保存する必要性を感じる人もなかったためと思われる.しかし長期的なネズミ類の変動や被害対策を考える上からも,正確な種の記録を残してゆくのは大切なことと考えるので,ここに石川県におけるクマネズミの記録として,河北潟干拓地での捕獲を報告する.現在,クマネズミはおそらく石川県下の都市および農山村の家屋内にかなり広く生息しているものと思われるが,さらに詳しい調査が必要であろう.

河北潟干拓地においては,これまでの20年余りの小型哺乳類の調査中にはクマネズミは採

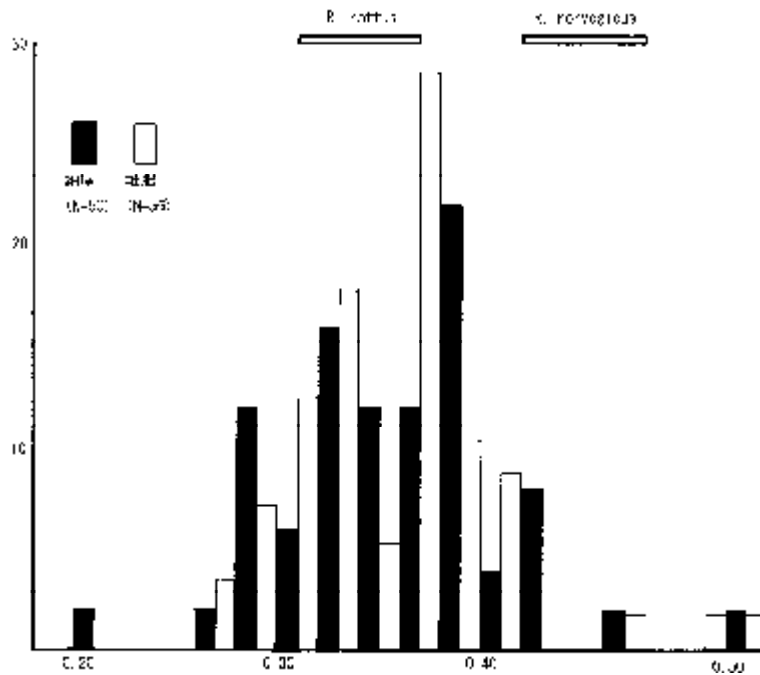


図1．河北潟干拓地の建物内部にあったネズミ糞の形状．  
 納屋：収穫物・機材収納小屋 堆肥：ゆうきの里の堆肥収納・袋詰め作業場．  
 縦軸：糞の形状（直径・長さ比）の頻度分布．  
 横軸：直径／長さの値（0.02間隔）．  
 R. norvegicus：ドブネズミの糞の直径／長さの標準値の範囲．  
 R. rattus：クマネズミの糞の直径／長さの標準値の範囲．

集できなかった．この長期にわたる調査の結果、河北潟干拓地は日本に生息する家鼠のうちでドブネズミ、ハツカネズミの永続的な野外個体群が存在するということが明らかになり、北陸の山野の中でも珍しい環境と考えられている．しかし今回発見されたクマネズミはすべて建物の内部で捕獲されており、今のところ野外個体群とは考えられない．干拓地の農業利用が進んで、納屋などのネズミの食料となる収穫物を収納した建物が出来てきたことによって、比較的近年にここに住み着いたものと思われる．食料などがほとんど置かれていない農業機械倉庫は干拓地が完成してかなり早い時期から建てられていた．その建物の内部や周囲の溝の中では、ドブネズミは1970年代後半から多く捕獲されていたが、クマネズミは今回まで全く捕獲

されていなかった．今回のクマネズミの発見は、近年の干拓地の環境の変化に対応するものと考えられる．ただし、水路で囲まれた広い干拓地内に分散して存在する小屋の中に、クマネズミがどのようにして移動してきて、住み着いたのかはいまのところ判っていない．

河北潟干拓地では、カモなどの野鳥によるムギ、レンコンなどの被害とともに、これまで主にハタネズミによるスイカ、キャベツ、ハクサイ、メロン、ムギなどの畑地における被害が問題となってきた．今回、植物食性の傾向が強く、貯蔵食料に加害することで知られているクマネズミが発見されたことで、この地域の農業害鳥獣対策に、さらに新しい問題が加わったことになる．

引用文献

- 阿部 永・石井信夫・金子之史・前田喜四雄・  
三清慎悟・米田政明 .1994 .日本の哺乳類 .  
195 P . 東海大学出版会 .
- 大串龍一 .1983 .哺乳動物 .辰口町史第一巻(自  
然民俗言語編) . 289 - 313 .
- 大串龍一 .2002 .河北潟干拓地における小型哺  
乳類相とその生息量の長期変動 .(1976 -  
1994年) . 河北潟総合研究 . 5巻1 - 15頁 .
- Ohgushi, R. 1985 . Successional change of  
small mammal fauna on Kahoku-Gata re-  
claimed land with agricultural develop-  
ment. Appl. Ent. Zool., 20:450-457 .
- 八神徳彦 . 1999 .ドブネズミ .石川県の哺乳類 .  
石川県哺乳類研究会 (編) . 55 P . 石川県  
環境安全部自然保護課 .